



平成29年度 南アルプスユネスコエコパーク推進事業 実績報告

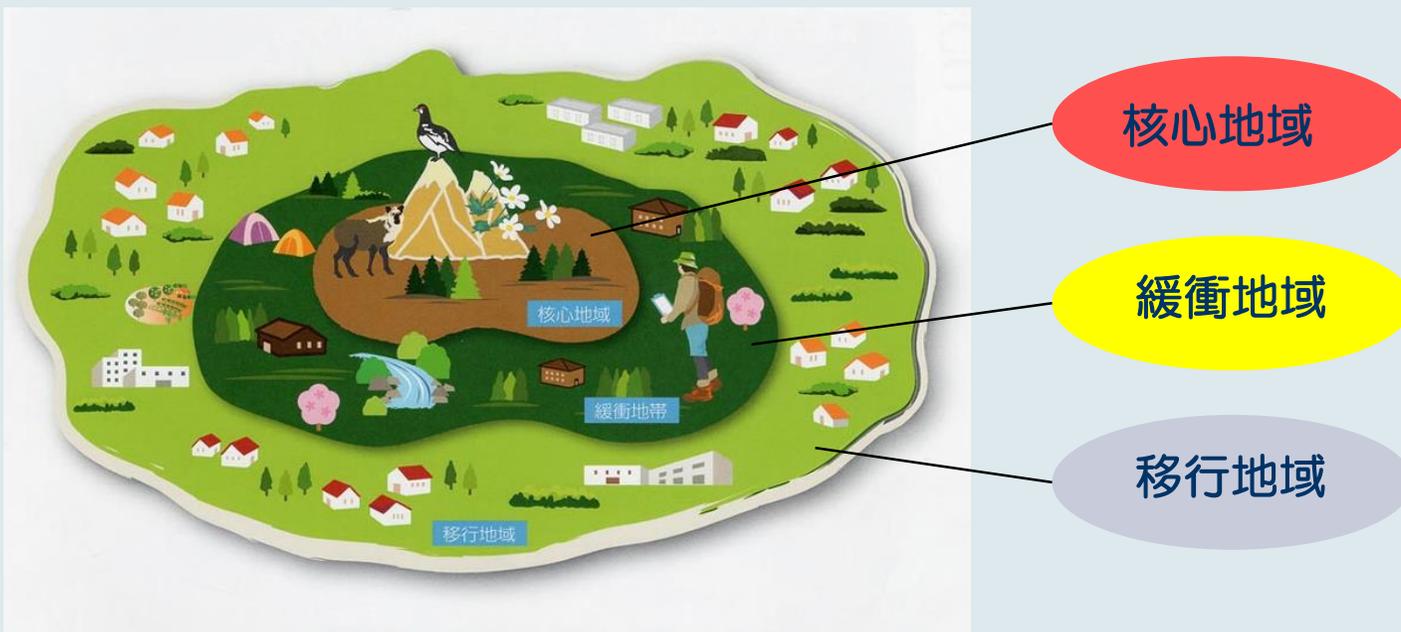
高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性
南アルプスユネスコエコパーク

ユネスコエコパークとは

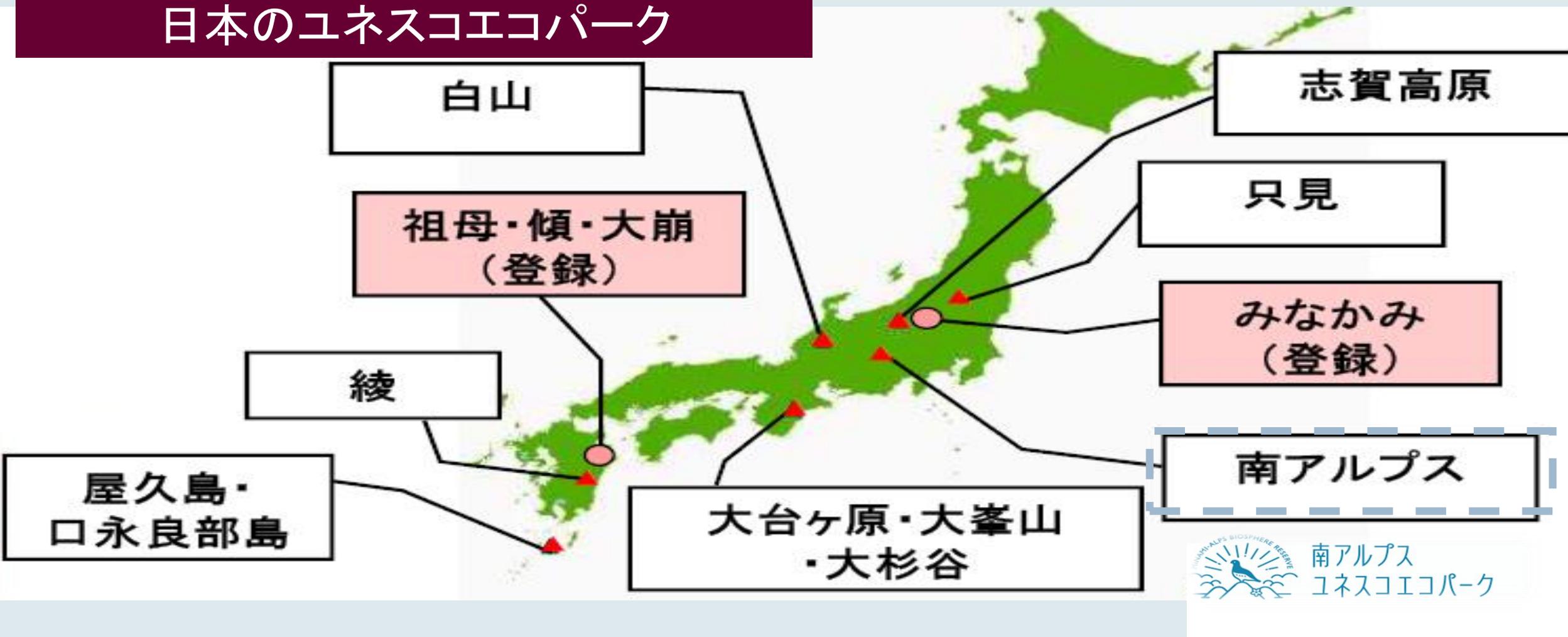
ユネスコエコパークとは、「生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）」を目的として、ユネスコが認定する取り組みです。具体的には、「地域の自然と文化を守りながら、地域社会の発展を目指す取り組み」で、世界では「生物圏保存地域（B R : B i o s p h e r e R e s e r v e s）」と呼ばれて、現在 **120カ国669地域**、日本では **9地域** が登録されています。（2017年6月現在）

南アルプスユネスコエコパークは、山梨県、静岡県、長野県にまたがる、日本最大のエリアを持つエコパークで、山梨県では、北杜市のほか、南アルプス市、韮崎市、早川町が登録されています。

総面積	302,474ha
核心地域	24,970ha
緩衝地域	72,389ha
移行地域	205,115ha



日本のユネスコエコパーク



南アルプスユネスコエコパークは、
2014年(平成26年)6月12日登録!

南アルプスユネスコエコパークのエリア

エリアは、南アルプス国立公園を中心とした地域

➡ 北杜市は、白州・武川をエリアとして登録

核心地域・・・国立公園の特別保護地区など自然環境を守らなければならない大切な地域で、北杜市では南アルプス国立公園の地域で適切に保護されています。

緩衝地域・・・核心地域の周辺で、環境教育、野外活動、調査活動等に利用できる地域であり、山梨県立自然公園の地域です。

移行地域・・・私たちが暮らしを営んでいる地域で、様々な社会活動が行われています。

白州・武川エリアの資源

山・・・甲斐駒ヶ岳、地蔵ヶ岳、日向山など

景観・・・山岳景観日本一、尾白川溪谷、

精進ヶ滝、桜、里山、田園など

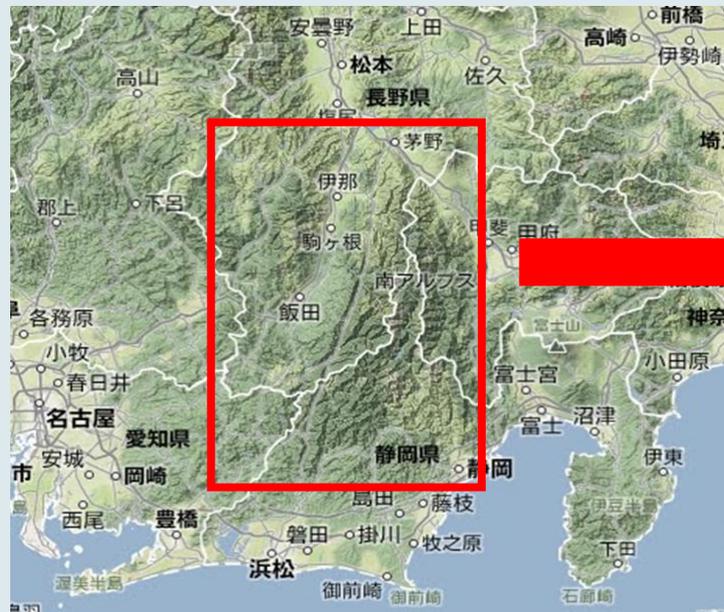
水・・・清流(尾白川、神宮川、大武川、

石空川など)、ミネラルウォーター生産量が全国の約3割を占める

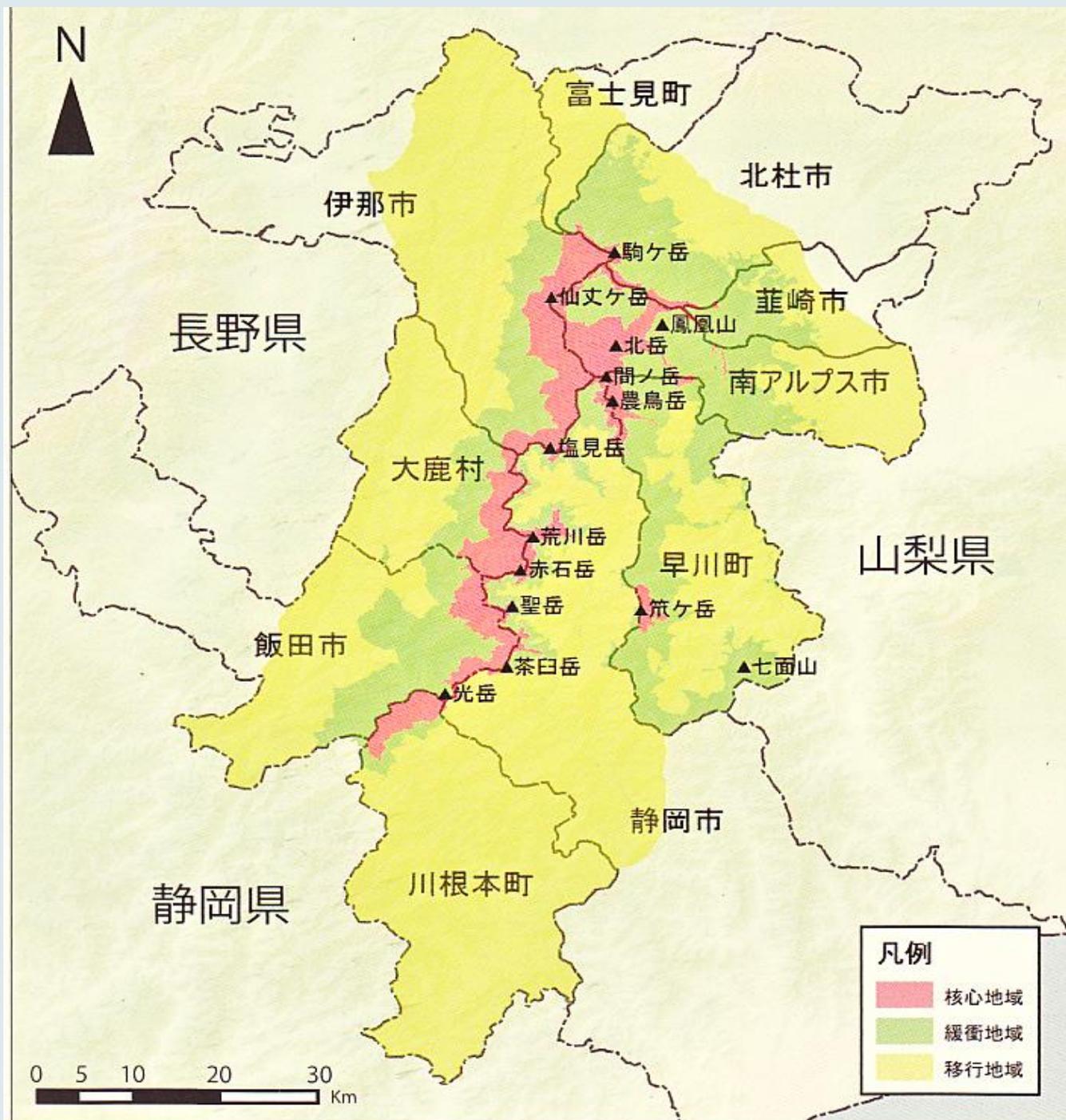
産物・・・米、そば、長芋など

歴史・文化・・・台ヶ原宿、神社、山岳信仰、民話、虎頭の舞、奉納相撲、大和神楽など

南アルプス ユネスコエコパーク区域図



総面積 302,474ha



ユネスコエコパークの魅力は

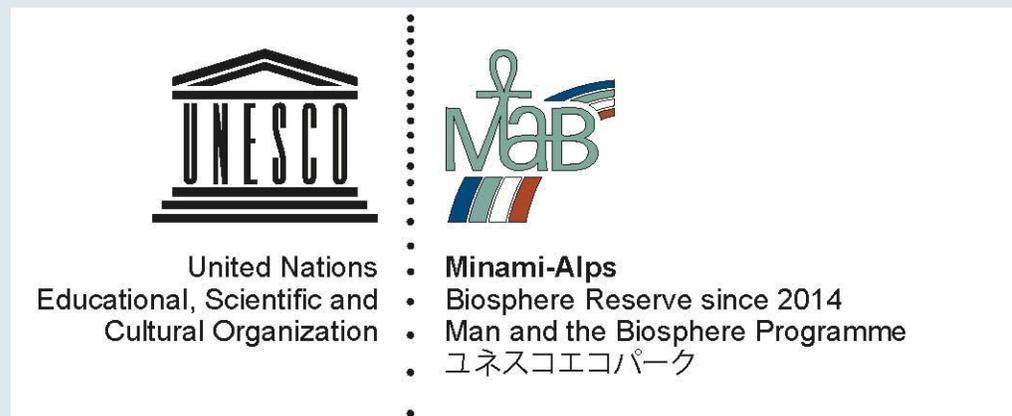
- ・南アルプスの山岳環境を永続的に保全していく体制づくりを行い、豊かな自然環境を守り伝えていくことができます。
- ・ユネスコエコパークとして、ふるさとの魅力を世界へ発信することで、国内外から観光や教育を目的とした旅行者の増加が期待できます。
- ・新しい法律や規制はありません。国内の既存の法律などで管理されます。
- ・環境教育や学術研究の実践の場として活用できます。

南アルプスユネスコエコパーク事業の目的

・甲斐駒ヶ岳を中心とした世界に誇れる貴重な資源を再発見・再認識し、自然と文化のつながりを市民共有の財産として位置づけ、優れた自然環境の継続的、永続的な利活用をはかりながら、魅力あるまちづくりを進めることを目的としています。

（北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会規約より抜粋）

・この目的を達成するため、北杜市では市民、企業、団体、行政が一体となり、『北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会』を設立して、市と協働で事業を実施しています。



平成29年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

事業名	科目	予算額	決算額
地域連絡会中山砦と展望台整備事業	補助金	1,000千円	999千円
地域連絡会外来種調査事業	補助金	150千円	145千円
地域連絡会尾白川・精進ヶ滝等環境整備事業	補助金	150千円	137千円
地域連絡会伝統芸能等保存事業	補助金	200千円	199千円
地域連絡会研修事業	補助金	300千円	79千円
PR、情報発信事業	消耗品費 印刷製本費 広告料 補助金ほか	4,149千円	2,769千円
関係市町村との連携事業	負担金ほか	896千円	805千円
子ども公民館劇場事業(子どもたちの体験発表会)	使賃料	150千円	85千円

平成29年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

1. 中山砦と展望台整備事業 ■ 予算額 1,000千円 決算額 999千円

概要

中山の頂上付近にある、市指定史跡「中山砦」の周辺や、展望台からの素晴らしい眺望を活かすため、環境の整備を実施し、PRや誘客を図るもの。

決算額内訳

樹木伐採費(404千円) + 看板制作費ほか(595千円)

伐採は前年度からの継続。看板は、頂上への誘導と展望台へ周囲の山々を紹介する案内板を作成し、設置。

伐採前

⇒

伐採後



展望台からの案内看板 ↓



平成29年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

2. 外来種調査事業

■ 予算額 150千円

決算額 145千円

概要

日本固有の動植物を保全・保護のため、外来種を持ち込ませないよう、緩衝地域や移行地域にある動植物について勉強、調査して対策を講じるもの。

① 甲斐駒ヶ岳旧5合目小屋周辺植生回復

これまでゴミを拾い実施してきた箇所に、自然な植生の回復を図ることと、法面保護のため、自然に還る植生回復マットを設置した。



← 植生回復マット設置状況



② 種子落としマットの設置

日向山矢立石登山口に、登山者等の靴底に付着した外来種の種子により、生態系への悪影響が山岳エリアに及ばぬよう、環境保全を併せて行った。



← 種子落としの様子

平成29年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

3. 尾白川・精進ヶ滝等環境整備事業

エリア内の環境美化活動を実施して、美しい景観を保全する。

また、清流のシンボル「カジカ」や河川に棲む水生生物を通して、名水の里を守るための啓発活動を行った。

決算額 137千円



←カジカと水生生物の捕獲



↑道の駅はくしゅうでのカジカの展示

→ごみ拾いと水質の調査

4. 地域連絡会伝統芸能等保存事業

市民等に対して、白州町、武川町の民踊や民話を伝えるイベントを開催した。同時に映像収録を行い、資料として保存し、学校の授業での活用を図る。イベントに併せて、講座も開催した。

民踊、民話を楽しむ会×南アルプス学講座(2/25)

決算額 191千円



↑市民による民話の披露

↓ 会場の様子



平成29年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

5. 地域連絡会研修事業

南アルプスユネスコエコパークを構成する自治体のひとつ、山梨県早川町を訪問し、自立的なまちづくりの状況や、伝統文化等保存施設の見学等を日本上流文化圏研究所の職員からお話をいただき、交流を深めた。

決算額 79千円



↑ 研修の様子

↓ ユネスコエコパーク拠点施設見学



6. PR、情報発信事業

認知度の向上を図るため、広告への掲載、情報発信拠点である道の駅はくしゅう、甲斐駒センターせせらぎの情報コーナーの充実を図った。

市では、地域連絡会と連携し、市民向けアンケートを実施した。今後は、その結果を共有し、以後の事業展開の指針とする。

また、地域連絡会においては、会のこれまでの活動を紹介する三角柱POPを作成し、市内店舗等に設置し、周知を図った。

決算額 2,769千円



↑ パンフレットの増刷も行った。

平成29年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

7. 関係市町村との連携事業

3県10市町村で組織する協議会及び山梨県連絡協議会での実施事業への協力

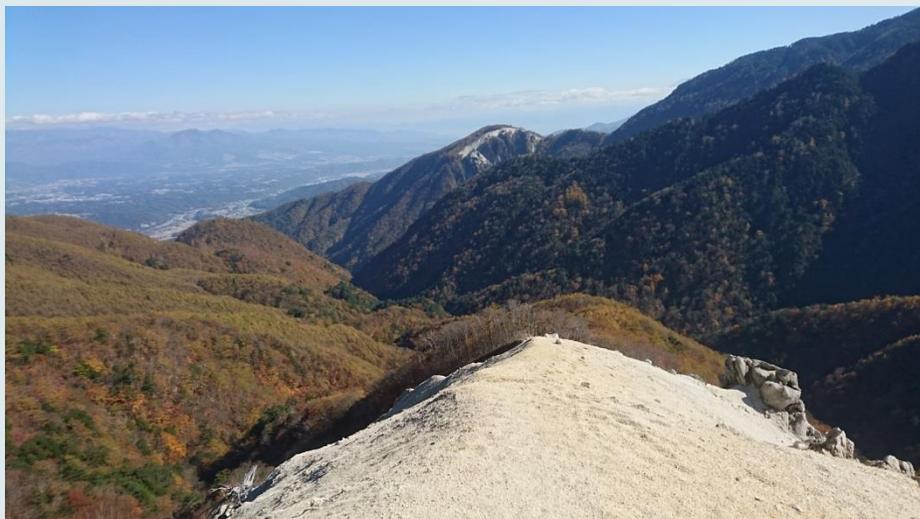
決算額 805千円

山に登ることが出来ない方にも、山頂からの景色を楽しんでいただくため、360°カメラによるVR映像を収録した、体験型のコンテンツを作成した。



南アルプスユネスコエコパークをPR

雨乞岳水晶ナギから



専用のスコープを使って映像を見ると、山頂からの景色が広がる。



こちらのQRコードを読み取ると、特設サイトにとびます。

平成29年度南アルプスユネスコエコパーク関連事業

7. 子ども公民館劇場事業(子どもたちの体験発表会)

白州小・武川小学校の児童がユネスコエコパークに登録された地域を調査、分析し、発表、検証することで、資源の再発見が出来ると共に、市内外に情報発信するもの。

平成29年度は、武川小5年生が、南アルプス市の芦安地区にある「芦安山岳館」の見学と、芦安小児童から、ユネスコエコパークに関する活動の発表を聞き、交流も図った。エリア内の学校同市の連携に大きな期待が生まれた。

決算額 85千円



南アルプスユネスコエコパークをPRし、このエリアの素晴らしさを市民に再認識してもらうとともに、後世に守り伝えるため、市民、企業、団体と一体となり事業を進めて参ります。

ご静聴ありがとうございました。